

1. 科目名 (単位数)	精神保健福祉演習 I (2 単位)	3. 科目番号	
2. 授業担当教員	三野 宏治・長谷川 行雄・小金澤 嘉・星野 弘美		
4. 授業形態	講義、演習	5. 開講学期	春期・秋期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	<p>精神保健福祉演習 I は、ソーシャルワーク演習 I 「ソーシャルワークの基礎」「ソーシャルワークの展開」を学んだ後に位置づけられる科目で、精神保健福祉演習 I、II、III と連続して学習するよう構成されている。これらの演習の主な学習方法は、グループ討議、文献調査、社会調査、情報収集、面接技法、ロールプレイ、モデリング等の多様な方法を用いて社会福祉実践の知識と技能を具体的に学習することを目的としている。精神保健福祉演習 I は、精神保健福祉援助の事例（集団に対する事例を含む。）を活用し、ソーシャルワークの過程を通じた援助、個別面接、グループワークの展開やリハビリテーションプログラムの実践、また社会福祉調査や普及啓発活動といった間接的なソーシャルワーク実践について総合的にその技術を習得する。また、すべての事例において、精神保健福祉士に共通する原理として「社会的復権と権利擁護」「自己決定」「当事者主体」「社会正義」「ごく当たり前の生活」を実践的に考察する方法を学ぶ。</p>		
8. 学習目標	<p>精神保健福祉演習 I が終了した時点で、精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人の状況や困難、また希望を的確に聞き取り、取り巻く状況や環境を含めて理解してソーシャルワークを展開するための精神保健福祉士の専門性（知識・技術・価値）の基礎を獲得することが期待される</p>		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<p>課題 1. 精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人の状況や困難をふまえ、希望を的確に聞き取るために必要な技術についてまとめる。          課題 2. ミクロ・メゾ・マクロと展開するソーシャルワークの支援について事例を用いて説明する。          各課題について、A4 用紙 2 枚にまとめること。</p>		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】          一般社団法人日本ソーシャルワーク学校教育連携編集『精神保健福祉士養成講座 ソーシャルワーク演習 (精神保健福祉専門)』中央法規出版          【参考書】          『はじめてのソーシャルワーク演習』編集委員会編『はじめてのソーシャルワーク演習』ミネルヴァ書房、2020.2</p>		
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準          ①精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人の状況や困難、また希望を的確に聞き取る技術を理解し実践できるか。          ②クライアントの取り巻く状況や環境を含めて理解するための視点を修得できたか。          ③ソーシャルワークを展開するための精神保健福祉士の専門性（知識・技術・価値）の基礎を身につけることができたか。          ○評定の方法          1. 演習への取り組み 60%          2. レポート課題 1～2 40%          なお、本学規定により、3/4 以上の出席が確認できない場合は単位の修得を認めない。</p>		
12. 受講生へのメッセージ	<p>本科目では、学生個人の思考力、創造力、問題解決能力を養成し、より実践的な技術、知識を得ることを目的としている。目的達成のため、受講生は以下の条件を守ること。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業中は、常に高い緊張感と、集中力を保って受講すること。学生には積極的な態度を望む。</li> <li>2. 自ら進んで教員に質問すること。理解できないことをそのまま放っておかないこと。</li> <li>3. 欠席、遅刻、早退をしないこと。欠席、遅刻、早退をした場合はその理由を必ず教員に書面をもって報告すること。</li> <li>4. 明らかに授業態度が悪いと判断された際は、厳格な指導を行う。指導後も授業態度の改善が見られない場合、たとえ皆出席であっても F 評価になるので注意すること。</li> <li>5. 授業中、私語、居眠り、携帯電話等の操作は絶対にしないこと。</li> </ol> <p>教員は以下のことを実行する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業の目的、目標を明確にし、授業の進行はシラバスに沿って行う。</li> <li>2. 受講生全体に聞こえる大きさの声で話しをするとともに専門用語はわかりやすく説明する。</li> <li>3. 一方通行の講義だけを行うのではなく、ディスカッションを行いながら、学生が積極的に授業に参加（発言、発表等）できるよう双方向対話型の学習環境を作る。</li> </ol> <p>遅刻、早退、授業中の居眠り、私語、携帯電話の使用等、授業に臨むうえで不適切な態度が見受けられた場合は、厳格に対処する。</p>		
13. オフィスアワー			
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	オリエンテーション ソーシャルワーク演習 I の振り返り	事前学習	シラバスを確認し、精神保健福祉演習 I の学習内容について確認する。
		事後学習	ソーシャルワーク演習 I・ソーシャルワーク演習 II での学習を踏まえ、精神保健福祉演習 I の自己の学習目標を明確にする。
第 2 回	精神保健福祉士になるための演習の意義と目的	事前学習	教科書第 1 章第 1 節を熟読する
		事後学習	授業で学んだことをまとめる

第3回	精神保健福祉士の演習の内容	事前学習	教科書第1章第2節を熟読する
		事後学習	授業で学んだことをまとめる
第4回	精神保健福祉士の実践における原理・原則Ⅰ －精神保健福祉士の原理原則の振り返りとその意義	事前学習	今までに学んだ精神保健福祉士の原理原則を振り返る 教科書第1章第3節1を熟読する
		事後学習	授業で学んだことをまとめる
第5回	精神保健福祉士における原理・原則Ⅱ －精神保健福祉士の原理原則を生かしたかかわり、精神保健福祉士としての立場や視点	事前学習	教科書第1章第3節、2～4を熟読する
		事後学習	授業で学んだことをまとめる
第6回	事例：個人に対する相談援助の理解Ⅰ －クライアントの理解	事前学習	教科書第2章第1節1を熟読し、わからない言葉があれば調べておく
		事後学習	授業で学んだことをまとめる
第7回	事例：個人に対する相談援助の理解Ⅱ －クライアントの理解を通して支援を考える	事前学習	プランニングの方法を復習しておく
		事後学習	授業で学んだことをまとめる
第8回	事例：個人に対する相談援助の理解Ⅲ －教科書の事例を読み自身のプランニングと比較する	事前学習	教科書第2章第1節2～7まで熟読し、わからない言葉があれば調べておく
		事後学習	授業で学んだことをまとめる
第9回	事例：グループにおける相談援助の理解Ⅰ －グループワークの展開過程とPSWとして求められる役割、技術	事前学習	ソーシャルワーク演習Ⅰで学んだことを振り返っておく
		事後学習	授業で学んだことをまとめる
第10回	事例：グループにおける相談援助の理解Ⅱ －準備期・開始期のグループワークの展開	事前学習	教科書第2章、第2節1～3を熟読し、わからない言葉があれば調べておく
		事後学習	授業で学んだことをまとめる
第11回	事例：グループにおける相談援助の理解Ⅲ －作業期・終結期におけるグループワークの展開	事前学習	教科書第2章第2節4～6を熟読し、わからない言葉があれば調べておく
		事後学習	授業で学んだことをまとめる
第12回	事例：コミュニティソーシャルワークの理解Ⅰ －コミュニティソーシャルワークとは何か	事前学習	ソーシャルワーク演習Ⅰで学んだことを振り返っておく
		事後学習	授業で学んだことをまとめる
第13回	事例：コミュニティソーシャルワークの理解Ⅱ －コミュニティアセスメントとプランニング	事前学習	教科書第2章第3節1～4を熟読し、わからない言葉があれば調べておく。
		事後学習	授業で学んだことをまとめる
第14回	事例：コミュニティソーシャルワークの理解Ⅲ －コミュニティソーシャルワークに必要な技術（社会資源の活用・開拓、ネットワーキング、ソーシャルアクション）	事前学習	教科書第2章第3節5～8を熟読し、わからない言葉があれば調べておく。
		事後学習	授業で学んだことをまとめる
第15回	まとめ	事前学習	授業で学んだことを振り返る
		事後学習	今後の課題についてまとめる
期末試験			